

## 平成 24 年度 第 2 回安城市男女共同参画審議会 会議録（概要）

日 時 : 平成 24 年 6 月 15 日 (金) 10 : 00 ~ 11 : 30

場 所 : 安城市役所 第 10 会議室

出席委員 : (委員) 旭委員、池端委員、稲垣委員、菊池委員、糸委員、榊原ちさと委員、  
榊原真由美委員、重田委員、柴田委員、丹羽委員、林委員 (11 名)  
(欠席者 : 舟橋委員)

(事務局) 中根部長、兵藤課長、長谷係長、池田、磯田

傍聴者 : なし

### 1. あいさつ

### 2. 議題

#### (1) アンケート結果に基づく第 3 次安城市男女共同参画プランの方向性について

資料 1 ・ 資料 2 ・ 資料 3 に基づき説明

#### (質疑回答)

##### 林会長:

どうもありがとうございました。事務局から資料 1 ・ 2 ・ 3 に基づき、現状の説明をしてもらいました。ここまでの説明で、気付いた点、質問等がありましたら発言をお願いします。あるいは、私たちから委員へ意見を伺いたいということもあります。

また、数値についてだけではなく、その背景にあるものなどいかがでしょうか。例えば、先ほどの説明にもありましたが、資料の 28 ページの『社会問題や市政について関心があるか』という質問に対して、関心がある層の減少がみられます。また、問 30 について『わからない』という意見が非常に多いです。そういった数値の結果は、男女共同参画の立場からすればあまり好ましくない結果と思わざるを得ない状況です。

第 3 次プランを策定していくときにできるだけ有効なものをと考えると、数字の背景についても、委員の皆さんの意見をいただきながら考えていきたいと思っています。どうぞ、忌憚のない意見をお願いします。

##### 池端委員:

榊原委員が、県の人権擁護に関わっておられるので、DV についてお聞きしたいと思います。資料 2 の 19 ページからのデータの結果通りなのか、実際は違うのか教えていただきたいと思います。

##### 榊原委員:

言葉の DV も含め、DV を受けた経験のあるかないかといったアンケート調査については、綿密に行ったことはありません。ただ、人権侵害問題として訴えるかこらえるかについて、ここま

でしっかりアンケートをして結果を出してもらえると、こちらとしてもありがたい資料になってくると思います。実際問題、DVは少なくなってきましたが、男性が被害に遭うケースは少し増えてきていると思います。

**事務局：**

実際に、成人のDVについて、アンケート結果からわかるようにだんだん減ってきていますが、根絶はされていません。今、問題になっているのは、デートDVといわれる若い世代のDVです。まだ統計などっていませんが、増えてきているのではないかということが、他の市の調査からみられます。

**丹羽委員：**

このアンケートは、男女ともとっていますか。

**事務局：**

はい。男女合わせてとっています。女性だけの質問ではありません。

**旭委員：**

資料1について、達成できている項目とできていない項目がある中で、私が一番衝撃を受けたものは、1ページの『「男は仕事、女は家庭」という考え方』についての質問です。3年比較の実際の数値を見ても、逆行現象というか、固定的性別役割分担を支持する人が増えています。平成16年のデータが、一番センシティブだったことは衝撃的でした。こんなにも拭い去れないものかと思いました。平成16年は、まだ景気が良かったころだったので、女性もどんどん社会に参加していくことに追い風が吹いていたと思います。ですから、子どもに対する意識に関しても同じような傾向になってます。今は景気が悪くなって、保守回帰というか、昔のパワーが戻ってきているのかと不安に思いました。その辺りの分析で、数字以上のものがありましたら教えていただきたいと思います。

あと2つ、細かい数値を教えてください。資料1の2ページ、『市男性職員の育児休業等の取得率』が77.8%です。その年に赤ちゃんが生まれた職員のうち、8割近くが育児休業、または、配偶者の出産補助のための特別休暇等をとったと思いますが、育休がどのくらいで、特別休暇がどのくらいなのか、数字がありましたら教えてください。

同じく3ページ『ドメスティック・バイオレンス市内連絡会議の開催回数』が、平成21年までは1、2回あります。平成22年と23年は、目標が2回ですが0回です。これは、市内で連絡を取り合うほどの大きな事項がなかったからゼロなのか、ということがわかれば教えてください。

**事務局：**

ではまず、『「男は仕事、女は家庭」という考え方』についての質問ですが、年代と男女別で調べました。年代別でみると、平成20～平成23年の伸び率が最も大きかったのは、40歳代の12.1%で次に50歳代が4.6%でした。男女別でみると、男性の伸び率が最も大きかったのは40歳代で、同じくらいの伸び率が20歳代で、若い年代で増えています。一方女性では、男性の伸び率より少し劣りますが、伸び率が最も大きかったのは40歳代の9.5%、その次に50歳代の8.2%でした。女性の20歳代は減少しており、考え方に賛成していないということです。男性のほうの率が高くなっています。

『市男性職員の育児休業等の取得率』について、平成23年度の実績です。育児休業、出産補助、子の養育のための特別休暇の3つの休業制度のうち、取得可能な該当者が18人います。そのうち

育児休業、出産補助、子の養育のための特別休暇の3つを取得した職員は1名で5.6%です。出産補助、子の養育のための特別休暇の2つを取得した職員は3名、出産補助のみ取得した職員は8名、子の養育のための特別休暇のみ取得した職員は2名です。取得しなかった職員は4名です。なお、育児休業を取得した期間は1か月です。

『ドメスティック・バイオレンス庁内連絡会議の開催回数』について、平成23年度はゼロ回答になっていますが、庁内連絡会議とは異なる名称で、DVに関係がある市民課、子育て支援課（社会福祉課）、市民協働課の3つの課の担当者が集まり、情報の共有を行っています。庁内連絡会議としては、大きな課題等はなかったので開催していません。本年度は、プランの策定がありますので、開催を予定しています。情報を共有していきたいと思います。

**柴田委員：**

1点、違和感を覚えたのが、5ページ問7『家事または日常的な行為について』の介護の現状で、『該当する人がいない』が半数以上という現状です。男性か女性、誰がやるべきことかということ以前に、介護はまだ新しく始まったものというイメージがあったと感じました。それから、子どもの世話も『該当する人がいない』が多いと思います。これは私見ですが、日本人の中には、家族以外の方が介護や子どもの世話をすることによって違和感はあるながらも期待しているのではないかと感じました。『家事または日常的な行為について』の介護（理想）については、日本人はどちらかといえば女性ということなのかと感じます。数値だけみていて、うまく言えませんが、そういった違和感を覚えました。

**事務局：**

介護をしている人の絶対数が少なすぎるということがあります。回答者数が少ないので、分析の結果はどの程度まで現状をとらえているのかを、分析や状況を見て確認していきたいと思います。

**林会長：**

確かに『該当する人がいない』も含めていますので、質問内容はそのとおりでと思います。『該当する人がいる』だけを分析してみると、現状と理想では、それほど差が開かないかもしれません。理想を聞いたときに、『該当する人がいない』ということはどういった状況でしょうか。

**事務局：**

『該当する人がいない』ので理想も語れないということになるかと思います。

**林会長：**

年代などをきちんと見ないと、回答者が介護しないことをモットーにしているから『該当する人がいない』と答えたのか、実際にもうすでに見送ってしまったのかはわかりません。指標をつくって見直していくときに、大きなポイントになるかと思います。

**榊原委員：**

介護の件は、状況として考えられるのは、夫婦のうち男性が介護しているか、女性が介護しているかとはまた別に、親の介護をどちらがしているのかということを知りたいと思いました。具体的な数値も興味があります。大切なのではないかと思います。

**事務局：**

家族の形態はさまざまで、夫婦だけとは限りません。自分の家族の形態が、どこに該当しているのかわからないから質問に悩むといった話もありました。夫婦のうち夫が妻を介護しているな

らば、男性が介護しているしかないと思います。しかし、親の介護もそこに入ってしまったのかもしれないので、現状は違っているのかもしれません。親の介護をどちらがみるのかという項目については、入れたならば現状が把握できていいと思いました。

**事務局:**

次回アンケートをとる時は、親の介護の項目を入れたほうがいいという意見でしたが、すでにアンケートをとってしまったので、とりなおしはできません。単年のアンケート結果だけを見て判断するということは、なかなか難しいです。経年で見て、過去のものと比較して動きを見ることによってわかることがあります。項目を変えるとか、変えたときは、必ずしも過去の部分で比較できるとは限りません。変えたところから新規になります。ですから、次回のアンケートの検討課題として、入れていってもらいたいということによろしいでしょうか。

**林会長:**

そうですね。アンケートの漏れやちょっと変だということもあります。今、目の前にある数字について、どうなのかということで議論を進めてきています。ずっと同じアンケート項目でやってきているので、今回だけ変えるということは、現実的ではないと思います。今回はこういった結果が出たということで、解釈していただきたいと思います。

**池端委員:**

資料1の1ページ、『(新規)安城市市民活動センター来訪者数』の数字です。平成17年度は4,418人でしたが、平成23年度は14,301人まで増えています。これは、わくわくセンターが新しくなり、あんねっとなど市民参加でいろいろやっているからだと思います。市役所や市民協働課をほめたいと思います。長谷係長や中山さんがいろいろなイベントを回って、モニタリングなどやった成果であると思います。市民参加が非常に進みました。市役所や市民協働課が、頑張っているということを皆さんに伝えたいと思いました。

**旭委員:**

同じく1ページ、『市管理職員のうち女性が占める割合』です。目標の12%は、他市町や国と比べると、かなり控えめであると思います。平成17年度、18年度、22年度と10%を超えて目標に近づきましたが、平成23年度は9.0%に下がってしまいました。これは、市役所内のことであり、頑張ればできると思いますが、下がったことに何か理由があれば教えていただきたいです。

**事務局:**

『市管理職員のうち女性が占める割合』が平成23年度に下がってしまった要因として、平成22年度末の退職者が大勢いました。退職者の中に、保育園の補佐級以上の園長が多く含まれていました。代わりに配属された園長は、係長級が多く、年齢も若いです。補佐級以上になり得る年齢の女性が少ないという現状です。今後、大量の退職が落ち着きましたら、徐々に女性の割合が増えていくと思います。事務職に限りましては、同様に管理職になり得る女性職員がとても少ないことと、女性の意識の問題もあると思います。今後、啓発や研修を行い、モデルとなる職員が増えることにより、意識が高くなれば、人事課としては、ぜひ女性を管理職へ登用したいと考えているということです。

**林会長:**

母数があまり大きくないので、1人、2人の異動で大きな差が出ると聞いています。

先ほどの、資料2問29『社会問題や市政に関心があるか』の結果について、どなたか理由など意見や感想がありましたら、聞かせていただきたいと思います。他市町でも同じような傾向になっていますか。社会全体がそういった傾向なのか、安城市だけがずっと落ち込んできているのでしょうか。事務局でデータなどありますか。

**事務局：**

『社会問題や市政に関心があるか』という項目で、近隣他市の情報を把握していません。一度調べて状況を見たいと思います。

**池端委員：**

私は安城市が劣っているとは思っていません。一步、二歩踏み出した状況だと思います。ここに、岡崎市の資料を持ってきました。岡崎市では男女共同参画を進めるために、講演会をやったり話し合ったりしています。他の市でも同様に行われています。安城市の内容を見てみると、23日に林先生を招き講演会を行います。

**林会長：**

施策は遅れていないと思います。市民の関心の度合いをみると、年々数値が下がってきています。背景にあるものはこれではないのかと、推察できれば教えていただきたいと思います。確かに、さんかく21・安城はイベント等を催してがんばっています。しかし、実際に調査するとこのような結果です。私は、この数値を見てショックを受け、なぜなのかと思い、皆さんの知恵を拝借したいと思いました。

**菊池委員：**

大きな出来事でいいますと、平成20年にはリーマンショックの金融危機により、トヨタ関連の経営が苦しい状態でした。それから、平成23年は大震災がありました。そういった大きな社会情勢の中で、アンケートを行った時期の前後がはっきりしませんが、いろいろな方面からの波及もあると思います。

**池端委員：**

付け足したいと思います。市政60周年のドキュメンタリー映画で、さんかく21が企画されているミツバチの映像があります。目で見てわかるものは、言葉で伝えるものだけよりも伝わって進みやすいのかなと思います。

**事務局：**

資料4・資料5・資料6に基づき説明

(質疑応答)

**林会長：**

どうもありがとうございました。細部まで説明していただきました。これからの委員の皆さんの意見が、次の第3次プランを方向づけることになると思います。時間があまりありませんが、気付いた点や積極的な意見等、いただきたいと思います。

**重田委員：**

資料4の9ページ、事業所、市民活動団体ヒアリング調査の実施について、事細かにいろいろなことを考えて計画を立てていると思いました。労働組合としての立場の視点で、意見を言いた

と思います。調査対象は、安城市内のファミリー・フレンドリー企業ということで、私の会社も入っています。こういった企業に聞くこともいいと思います。ただ、会社側の考えと働いている労働者の考え方は違うと思います。ファミリー・フレンドリー企業にヒアリングするのであれば、その労働組合にもヒアリングするのもおもしろいのではないかと思います。

ファミリー・フレンドリー企業が選ばれているということは、最低限クリアしているということだと思います。そういった意味では、これ以上まだ何か求められるのかといった反発が出てくるのかなと思います。反発はあっていいと思います。特に製造業は、円高で雇用を守るのが精一杯だから、これ以上言わないでほしいというのが本音だと思います。

企業のほうにもっと調査をするのであれば、ファミリー・フレンドリー企業だけではなく、ファミリー・フレンドリー企業ではない中小企業にヒアリングすれば、問題の本質や根深い部分が潜んでいるのではないかと思います。ファミリー・フレンドリー企業ではない企業を、抽出してヒアリングすることを提案します。

**林会長：**

大事な視点をいただきました。事務局は、今の重田委員の提案は可能ですか。

**事務局：**

まだ、対象企業を決めていませんので可能です。検討します。ぜひ榊原コーポレーションにもお願いしたいと思います。

**丹羽委員：**

生の声を聞くために、直接足を運ぶという予定でいますか。

**事務局：**

この企業全部ではなく、いくつかを選んでということになります。そして、企業訪問します。または、商工会議所を通じて声をかけたいと思っていますが、まだ打合わせもしていませんのでこれから考えていきたいと思います。

**林会長：**

章の数が倍になり、構成としては、3章立てが6章立てになりますね。全体のページ数やボリュームはあまり増やさないということですか。

**事務局：**

章は増えますが、施策や指標について見直し、重複しているところなど調整してボリュームを減らす予定です。それほど全体としてボリュームが増えるということはないと思います。

**稲垣委員：**

意見等ではなく、お願いになります。私はまだ子育てをしています。子どものころから、男女共同参画の理解の促進は大事なので、力を入れていただきたいと思います。私は40代で、「男は仕事、女は家庭」という考え方が多い年代だと思います。そういった思いはあるけれど、これからの子どもたちには男女平等、男性女性関係なく、人として、人間として協力し合って生きていける社会をつくってもらいたいという思いもあります。ですから、子どもたちにも男女共同参画という言葉を知りやすくしていただきたいと思いました。

**林会長：**

愛知県の基本計画にも、新たに、子どもにとっての男女共同参画という視点が加わりました。確かに、男性にとっての男女共同参画と同じくらいか、それ以上に大事であると、国も県も認識

していると思います。それを実効性のあるものとして、具体的に考えていくと、なかなか難しくややこしいことも生じてくるかなと思います。しかし、大事なことです、うまく盛り込めるといいと思います。

**糸委員：**

前回欠席しましたので、今日が初めてになります。皆さんと比べて見識が低く恐縮します。アンケートの課題などありましたが、なかなか思うようにいっていない原因の解明をやらないのかなと思いました。

**林会長：**

そうですね。ひょっとしたら一番難しいことかもしれませんね。

**榊原委員：**

第2次男女共同参画プランの目標達成状況が48の指標の中で24ということで、ちょうど半分でした。アンケートを見るといろいろな問題点があり、複雑化してきています。社会情勢で後退しているところもありますが、達成状況も見えてきたところもありました。第3次にあたり6章立てになり、ますます細分化されましたので、もっと皆さんの意見をいただき、いいものになればいいと思いました。

**林会長：**

ぜひ、皆さんの力をいただきながら、すてきな第3次プランになればいいと思いました。期待もし、責任の重さも感じています。

### **3. その他**

**事務局：**

今後のスケジュールについてお伝えします。本日の委員の皆さんのご意見を踏まえ、今後第3次プランの関係課で方向付けする作業部会において、市の計画との調整をとりながら素案を策定していきます。次回の審議会では、策定した素案につきまして審議をお願いします。9月上旬を考えていますので、日程等決まりましたら通知いたします。よろしくをお願いします。

皆さんの意見を参考にしながら、実効性のあるプランをつくっていくことが重要なのかなと思います。お手数、ご迷惑をおかけしますが、今後ともよろしくをお願いします。

それでは、これを持ちまして、平成24年度第2回安城市男女共同参画審議会を終了します。ありがとうございました。